

保育者養成校におけるピアノ指導法の一考察

演奏技術向上の観点から見た入学前ピアノレッスンの効果について

川 畑 尚 子

1. はじめに

わが国では幼児教育の草創期より、幼児の歌唱指導や音楽活動にピアノが用いられてきた。現在も、多くの保育現場では教員採用試験においてピアノ実技試験を課しており、ほぼ全ての保育者養成校でピアノ指導が行われてきた。しかし、近年、ピアノ学習経験の浅い入学者が増え（中山, 2008¹、田中, 2009²）、そうした状況に対応するため、「保育者に必要なピアノ技術についての検証」（奥, 2009³）や、「ピアノ初心者に対する指導についての研究」（小松, 2013⁴、今釜, 2013⁵）などが報告されている。

大阪キリスト教短期大学（以下、「本学」と略す。）においても、ピアノ学習経験の少ない学生が増え、2年間という短い時間で保育者に必要なピアノ基礎技術を身につけさせるため、筆者ら本学において2010年度より入学前ピアノレッスンを開始した。

本稿ではこの入学前ピアノレッスンに着目し、それによるピアノ演奏技術向上の効果について考察したものである。またこの考察をベースとして、各受講生の進捗とその後の伸び、さらには各受講生の演奏背景（保有楽器の種類、ピアノ演奏歴等）との関連性についても考察した。

2. 研究方法

本稿では入学前ピアノレッスンによるピアノ演奏技術向上の効果を検証するため、入学前ピアノレッスンを受講した各受講生の受講前と受講後のピアノ演奏技術（以下、「進捗」と表記）を比較することで考察を行う。進捗は6段階の進捗に分類され、それぞれ①バイエル入門程度（49番まで）、②バイエル途中（50番～89番）、③バイエル終了程度（90番～106番）、④ブルグミュラー程度、⑤ソナチネ程度、⑥ソナタ程度とした。各データの詳細は後述するが、受講前進捗は「入学前ピアノレッスン受講表」、受講後進捗は「器楽授業記録表」という調査票よりそれぞれ入手した。

また各受講生の入学後の進捗や演奏背景との関連性についても検証するため、各受講生の入学前ピアノレッスン受講前の進捗と、卒業直前の進捗（2年次後期試験の進捗）、ならびに保有楽器の種類やピアノ演奏歴に関するデータをそれぞれ比較することで、その関連

性を考察する。これらのデータは、卒業直前の進度が「器楽授業記録表」、保有楽器や演奏歴は「入学時ピアノ進度調査」の各調査票から入手した。

なお本稿では、データ入手の容易さから、2012年度入学生を対象に分析を行った。

以下、本学入学前ピアノレッスンについて概略を説明し、その後、分析に用いた各調査票（「入学前ピアノレッスン受講表」、「器楽授業記録表」、「入学時ピアノ進度調査」）について説明する。

2-1 本学の入学前ピアノレッスンについて

本学の入学前ピアノレッスンは、入学試験合格後、4月の入学までに行い、毎年1月から3月までの間月1回、計3回実施している。主に入学後のピアノの授業に不安を持つ希望者を対象に、本学のピアノ教員が入学後の授業と同じ形式で、各受講生のピアノ演奏を聴いてアドバイスし、実技指導を丁寧に行って学生のピアノ技能の向上を図っている。このレッスンの参加・不参加および参加回数は合格者（入学予定者）の任意であるが、特にピアノ入門程度、もしくはバイエルを弾いている人には参加を強く勧めている。

2012年度は、第1回1月28日、第2回2月15日、第3回3月21日に実施され、受講生数は63名であった。ただしその後退学した学生等がいたために、分析対象者数は61名である。（調査票の項目によっては回答していない受講生も存在するため、以下の分析におけるサンプルサイズは61未満となるケースもある。）

2-2 「入学前ピアノレッスン受講表」

この受講表は、各受講生が3回の入学前ピアノレッスンのうち各回で何の曲で受講したかを記録したものであり、その日に担当したピアノ教員が記入している。前述のとおり、受講した曲を6段階の進度に分類した。本稿では、入学前ピアノレッスン受講前進度として、本受講表における受講初回の進度データを用いる。

2-3 「器楽授業記録表」

学生が入学後、ピアノの各授業で何を弾いたかを卒業するまでの2年間記録している表である。各担当教員が15回×2年間の授業全てを記録している。この授業記録表では、入学前レッスン受講後の進度として初回授業時の進度データを用いる。これにより先述した入学前ピアノレッスン受講表における受講初回の進度データと比較することで、入学前ピアノレッスンによる演奏技術向上の効果を検証することが可能となる。またさらにこの記録表から2年次の後期試験時の進度データを用いることで、長期的な演奏技術の向上効果も考察する。

2-4 入学時ピアノ進捗調査

入学直後のオリエンテーションにて学生に配布しているもので、学生がアンケート形式で回答している調査票である。内容は①今までのピアノ歴(レッスンを受けた時期・期間)、②家にある楽器(「ピアノ」、「電子ピアノ」、「エレクトーン」、「キーボード」、「無し」)の6つの選択肢から回答)、③現時点での自分の進捗を前述の6段階で選択するものである。この進捗調査からは、各受講生の進捗と演奏背景との関連性を見るため、上記の①ピアノ歴および②保有楽器のデータを用いた。

3. 結果

3-1 入学前ピアノレッスン受講前進捗から受講後進捗について

表1は入学前ピアノレッスンの受講前との比較で、受講後および卒業時の進捗を示している。なお表内の数値は該当人数を表している。

受講前進捗	パネルA							パネルB							(人)
	計	受講後進捗						卒業時進捗							
		1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	6	平均	
1	6	0	6	0	0	0	2.0	0	0	0	3	3	0	4.5	
2	24	0	16	7	1	0	2.4	0	0	0	5	18	0	4.8	
3	7	0	0	1	6	0	3.9	0	0	0	0	6	1	5.1	
4	22	0	2	0	20	0	3.8	0	0	0	2	15	5	5.1	
5	2	0	0	0	1	1	4.5	0	0	0	0	0	2	6.0	
計	61	0	24	8	28	1		0	0	0	10	42	8		

進捗1: バイエル1番-49番、進捗2: バイエル50番-89番
 進捗3: バイエル90番-106番、進捗4: ブルグミュラー程度
 進捗5: ソナチネ程度、進捗6: ソナタ程度

表1のパネルAを見ると、進捗1(バイエル49番まで)の学生6名はすべて、入学前ピアノレッスン受講後、進捗2(バイエル50番~89番)に進んだ。また進捗2の学生24名のうち、16名(2/3)は進捗2のまま、残り8名(1/3)は進捗3(バイエル90番~106番)および進捗4(ブルグミュラー程度)に進んでいた。進捗4及び5(ソナチネ程度)の学生は受講後も同じ進捗に留まっており、中には進捗を下げた学生もいた。

したがって「進捗を上げる」という観点を基準とした場合、今回の分析対象においては進捗1-3の学生に対する授業前レッスンは有効であり、進捗4-5の学生に対しては有効ではないと言える。実際、分析対象者61名を対象とした受講前・受講後の平均進捗の差を統計的に検定したところ、t値1.382(p=16.94%)と統計的に有意な差は認められなかった。その一方で、受講前進捗を1-3に限定した検定では、t値3.458(p=0.09%)と統計的に有意な差が認められた。

また、入学前ピアノレッスン受講前と卒業時の進捗の比較に関しては、表1のパネルB

に示されている。この表からは、当然ではあるが、全ての学生の進度平均が上がっていることが読み取れる。特に、各進度の入学時の平均と卒業時の平均の差を考えると、ここでも特に進度 1-3 の学生が 2 年間でより大きく進度を上げていることが分かる。

3-2 保有楽器に関して

表 2 では入学前ピアノレッスンの受講前との比較で、保有楽器とピアノ演奏歴の該当者数を示している。なお保有楽器に関して複数回答の場合には、ピアノ、電子ピアノ、エレクトーン、キーボードの順で優先し、一択回答として調整している。またパネル B に関しては、各受講者のピアノ演奏歴が各カテゴリー（就学前、小学校、中学校、高校の 4 分類）においてわずかな期間でもレッスンを受講した場合（本学の入学前レッスンを除く）、当該カテゴリーに該当する人数でカウントした。

表 2	パネルA (人)					パネルB (人、年数)				
	保有楽器	a	b	c	d	e	ピアノ演奏歴			
受講前進度	a	b	c	d	e	就学前	小学校	中学校	高校	平均年数
1	0	2	2	2	0	1	1	0	4	2.2
2	7	14	0	5	0	4	4	1	22	2.0
3	4	2	1	0	0	1	2	1	5	3.6
4	5	12	3	1	0	5	16	9	12	5.8
5	1	1	0	0	0	1	2	2	2	9.5
計	17	31	6	8	0	12	25	13	45	

保有楽器：a-ピアノ、b-電子ピアノ、c-エレクトーン、d-キーボード、e-無し

表 2 のパネル A を見ると、家にピアノまたは電子ピアノを保有している学生は、進度 1 を除きすべての進度水準で半数以上いることが分かる。逆にピアノ・電子ピアノを保有していない比率は、進度 1 は 66%、進度 2 から 4 の階層はすべて 20%以下、進度 5 では 0%であった。このことから、家にピアノまたは電子ピアノを保有している学生ほど進度が高いという結果になった。

3-3 ピアノ演奏歴に関して

表 2 から、1 人当りの平均年数に関しては、概ね進度が上がるほど年数が上昇していることが分かる。ここで受講前進度が 1 のカテゴリーでは、6 名のうち 1 名が経験年数 10 年であり、その結果進度 1 全体の数値を押し上げている。したがってこの学生を除くと 0.6 年となり、このカテゴリーに属するほぼ全員が経験年数 1 年未満で入学していることが明らかとなった。

4. 考察

4-1 入学前ピアノレッスンの効果と課題

今回の結果から、入学前ピアノレッスンが、入門程度の学生にとって、特に効果があることが示された。入門程度の学生が、新学期にピアノ技能の差が小さくなっているという事実の持つ教育的意義は、学生のセルフエスティームの向上にも有用で学修意欲の向上、学生生活のスタートにおいて心理的作用も貢献できていると考えられる。また「進度を上げる」という観点だけを見れば、入学時に入門程度だった学生ほど、卒業までの2年の間に進度を上げている結果となった。これにより、入学前にレッスンをを行い、少しでも早く練習をスタートさせることは意義があることと思われる。

入学前ピアノレッスンの初回にブルグミュラー、ソナチネを弾いた受講生（進度4および5の学生）は、「進度を上げる」という観点では効果は見られなかった。ただし同カテゴリー受講生の多くは受講後にも同じ進度カテゴリーではあったものの、曲番を進めていたケースが少なからず散見された。したがってこのカテゴリーの受講生に対しても「演奏技術向上」の観点から見た場合、入学前ピアノレッスンの効果がまったくなかったとは言い難いと思われる。またこうしたレッスンを受けることは受講生に具体的な目標を持って練習に臨むことを促し、さらに本学に来校して実際に授業が行われている教室で、担当教員からアドバイスを受けることは、入学後の授業準備という点からも意義あることと思われる。

このように入学前ピアノレッスンは、受講生の演奏技術向上の観点の他、様々な点からも有意義なものと考えられるものの、課題も少なくない。そのひとつとして分析対象となった2012年度を受講生（63名）は同年度入学した203名（幼児教育学科193名、国際教養学科教育コース10名）の約30%に留まっている。また例年、同レッスンに参加申し込みはするものの、欠席する学生がいることが今後の課題とみている。

4-2 ピアノ保有とピアノ演奏技術向上の関係

今回さらに、家にピアノまたは電子ピアノを保有している学生は進度が高いことが示された。これは、①エレクトーンやキーボードでは、鍵盤の数が少なく音域が狭いため、保育で必要な楽曲を弾く場合に鍵盤が足りないことと、②家にピアノがあることで、練習時間が確保できていることの2点が推測できる。

これらの学生は幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得を目指しており、そのために教育課程に示された多くの授業科目の履修と、各授業の内容を修得するために求められる課題を行っている。その忙しい日々の中でピアノの練習時間を確保するのは容易ではない。そのため、このような学生に対して、本学ではピアノ練習室を貸し出し、空き時間や休み時

間に練習できるように推進を図っているが、数は限られており、それだけでは足りないことが予想できる。家にピアノがあることで、帰宅してから、夜や朝に短い時間でも毎日弾けることが演奏技術向上に繋がったと思われる。練習時間を確保するのが容易ではない学生達の演奏技術向上のためには、教える側が、保育者を目指す上でどんな場面でピアノを使い、どんな演奏技術が必要なのかを1年生の始めから話し、より具体的にイメージ出来るように心がけること、また実習等で経験を積んで、保育現場の様子が分かってきている2年生には、それぞれどんな体験をしたかを聞きながら、足りないところを伸ばすよう努めるなど、個別指導を活かした言葉掛けが大切と思われる。

4-3 ピアノ学習経験年数と演奏技術向上の関係

概ね進度が上がるほどピアノ学習経験年数が上昇している結果については、ピアノ学習経験の浅い学生も、卒業後も経験年数を重ねれば確実に演奏技術が向上するという結果とも言える。学生達は、卒業後すぐに保育現場に入り、毎日の保育だけでなく、様々な園行事でピアノが用いられていることから(山内, 2009⁶)、2年間で実践できるようにある程度の演奏技術をつけて卒業することは必至である。

本学では、保育現場での音楽活動に使用できる楽曲を多く載せた『本学ピアノミュージック』を卒業までに終えることを課している。2年間で多数の曲を弾くことで基礎知識を理解し、楽曲に合った解釈を身につけて、卒業後も経験年数を積んでいくことが演奏技術向上に繋がるとと思われる。

5. おわりに

本稿では、2012年度入学前ピアノレッスン受講生に絞って考察したが、61名という少ないデータであった。今後の課題として、他の年の受講生との比較や、入学前ピアノレッスンを受講しなかった学生の比較なども行い、ピアノ演奏技術向上に繋がりたい。

少子化による大学全入時代と言われる中、養成校の課題は増加し、保育を取り巻く環境も、子ども・子育て支援新制度のスタート、地域社会や家庭の変化などによって大きく変動している。養成校のピアノの授業においても、保育者に必要なピアノ演奏技術を明確にし、短い時間で何を重視していくのか、教える側の研究が益々必要である。人間的に豊かな保育者を育てるために、入学前ピアノレッスンを含め、学生達が将来生き生きと音楽活動が行える試みを、これからも模索していきたい。

引用・参考文献

1. 中山由里「ピアノ教育の導入期における授業についての一考察 ―ピアノ学習初心者への講座を通して―」、『九州女子大学紀要 人文・社会科学編』2008年、67-81頁。
2. 田中知子「養成校におけるピアノ授業の方向性について ―就職試験の課題を通して―」、『日本乳幼児学会』第19回大会研究発表論文集、2009年、68-69頁。
3. 奥千恵子「保育者養成と演奏技法―保育指導としてのピアノ奏法―」、『四天王寺大学紀要第48号』、2009年、137-154頁。
4. 小松洋子「保育者養成校のピアノ初心者に対する指導について―ピアノ特補の試み―」『聖徳大学幼児教育専門学校研究紀要第5号』、2013年、1-9頁。
5. 今釜亮「保育者養成校における音楽の授業実践：総合的な音楽力と保育力の育成を目指して」、『筑紫女学院大学・筑紫女学院大学短期大学部紀要』、2013年、241-251頁。
6. 山内尚子「幼稚園教諭のピアノ演奏技術に関する一考察 ―質問紙調査から見える保育者養成校ピアノ教員の課題―」、『聖和大学大学院 修士論文』、2009年、25頁。